

トヨタ自動車東北株式会社 環境・CSRレポート2011

Contents

1. 会社紹介
2. 環境保全活動
3. CSR
4. 地域社会との関わり

VOL.5
2011年7月

トヨタ自動車東北株式会社

基本理念

1. お客様のご要望にお応えする品質・価格に優れた商品をタイムリーに提供する。
2. 地域社会から信頼される企業市民を目指すとともに、よりよい地球環境の実現と地域の活性化と発展に貢献する。
3. 労使相互信頼をもとに個人の創造力とチームワークの強みを最大限に高める企業風土をつくる。
4. オープンでフェアな企業活動を通じて、長期的な成長と共存共栄を実現する。



会社紹介

代表挨拶

3月11日に発生した東日本大震災により、東日本、特に東北地域は甚大な被害を受けました。東北地域のモノづくりも大きな打撃を被り、自動車産業は当社を含め、大規模な生産停止・縮小を余儀なくされました。

今回の震災を通じて、私どもが日々企業活動を行うことができるのも地域の安定・皆様のご支援があってこそであるという思いを強くいたしました。私どもこれまでの皆様のご支援に感謝すると共に、東北地域に立地する企業としての責任を果たし、復興に尽力して参りたいと考えております。

当社は「町いちばんの会社」になろうという目標を掲げています。これは町を愛し、みんなに慕われ、地域の誇りとなる企業を意味します。この震災を地域の皆様と共に乗り越え、人々に愛され、自然環境といつまでも共生していける企業となれるよう、これからも努めて参ります。

さて、本誌は日頃から当社を支えてくださっている皆様へ向けた活動報告書です。このような状況において、例年どおり本誌を発行できましたことは大きなよこびであります。是非ご一読いただき、当社の活動についての理解を深めていただければ幸いです。



代表取締役社長
杉山 正美

会社概要データ (2011年4月時点)

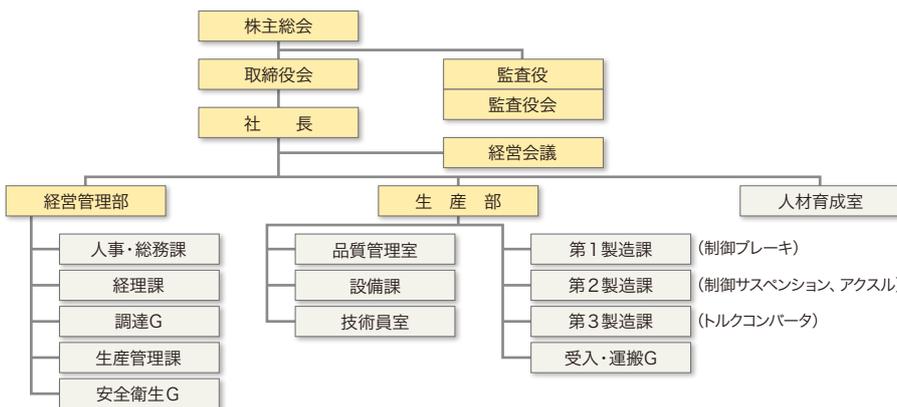
○従業員数	476人	○主な勤務形態	連続2交替制
○平均年齢	27.1歳(組合員の学齢)	○敷地面積	約618,000㎡
○売上高	236億円(11/3)		

主な製造品目	年間生産能力(万台)	製品写真	主な製造品目	年間生産能力(万台)	製品写真
制御ブレーキ (ABS, ECB)	70		アクスル	36	
制御サスペンション	TEMS 30 AHC (AVS, P&V) 9		トルクコンバータ	96	

沿革

- 1997年 7月 起工式
- 1998年 7月 生産開始
- 1998年 10月 竣工記念式典(創立記念日)
- 1999年 12月 ISO14001認証取得
- 2003年 6月 アクスル生産開始
- 2005年 1月 ECB2生産開始
- 2005年 10月 第2工場竣工式
- 2005年 11月 トルクコンバータ生産開始
- 2007年 6月 制御ブレーキ累計500万台
- 2008年 7月 エンジン工場用地を取得
- 2008年 10月 10周年記念パーティ開催
- 2010年 10月 セントラル新宮城工場向け直接出荷開始
- 2011年 7月 関東自動車、セントラル自動車との3社統合計画を発表

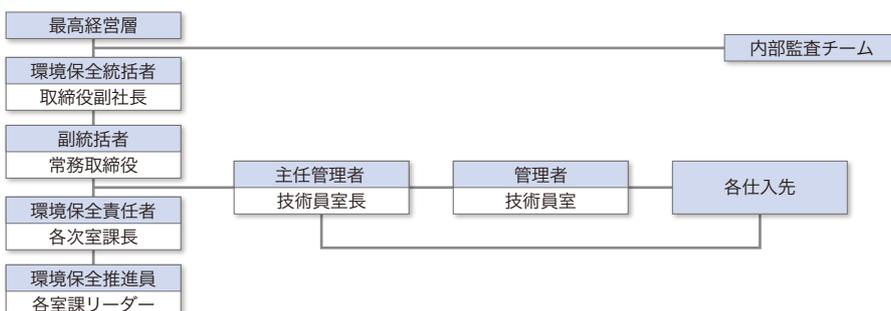
会社体制図 (2部 3室 7課)



会社敷地図



環境保全推進体制



環境保全活動

方針

世界552社が参画するトヨタ連結環境マネジメントの一員として以下の取組みを行っています。

- ① 「トヨタ地球環境憲章」を共有し自社の環境方針を推進
- ② 数値目標を立ててフォロー
- ③ EMSを構築し、環境負荷低減、環境コミュニケーション・社会貢献を実施
- ④ 地域の状況を踏まえたトップレベルの環境対応

(EMS: 環境マネジメントシステム)

トヨタ自動車東北(株)環境方針

従来の会社環境方針を見直し、2011年7月より新たな環境方針のもと、全従業員一丸となって環境保全活動に取り組んでいます。

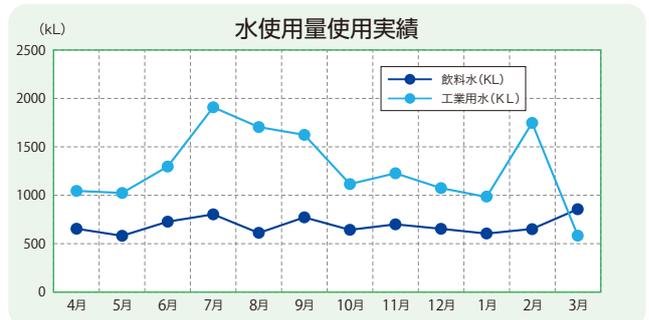
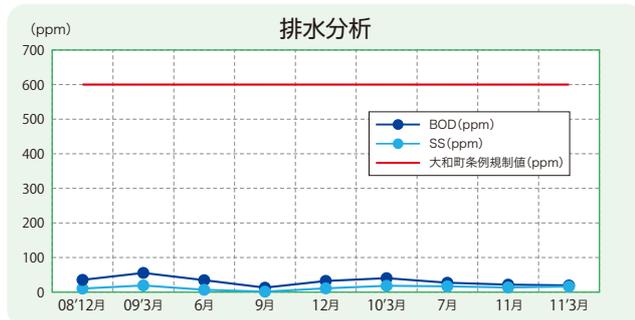
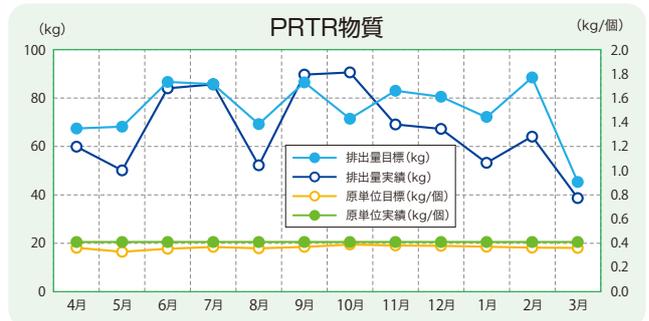
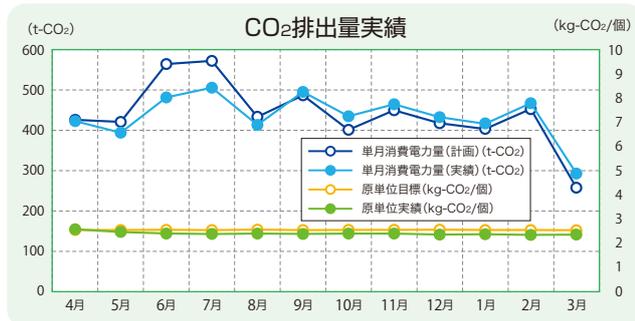
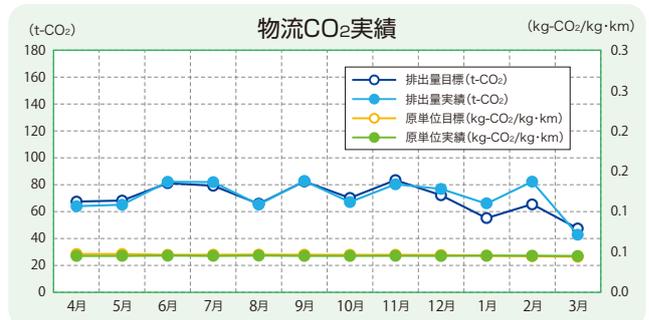
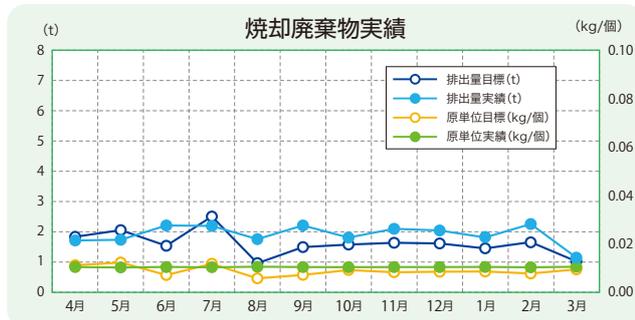
環境理念

トヨタ自動車東北株式会社は、自動車のブレーキ・サスペンションなどのユニットの生産において、安全と品質にこだわり、地球環境への配慮を最重要課題のひとつと位置づけ、顧客に信頼される製品を提供する企業活動に取り組めます。

環境方針

1. 当社の事業活動が環境に及ぼす影響を定期的に評価し、その結果を踏まえて目的・目標を定め、環境マネジメントシステム改善に継続的に取り組みます。
2. 環境異常苦情予防として法令・条例を順守し、さらに厳しい自主管理基準を設定し管理します。
3. 省エネルギー、環境負荷物質の削減、廃棄物の3Rを推進し、環境保全に努めます。
4. 地域社会と連携し、全社員が環境に関する意識を高めて活動を推進します。
5. この環境方針を全社員に周知させると共に、社外に関しては、ホームページ等で公開します。

環境データ (2010年)



環境会計

「環境会計ガイドライン」(環境省発行)をベースに環境保全への投資、費用の算出を行っています。今後は過年度との比較を通じて、環境保全活動の実施状況のパロメーターのひとつとして活用していきます。

分類		投資・費用計(百万円)		主な取り組み	
		09年度	10年度(09年度比)		
1	事業エリア内コスト	①公害防止	3.5	2.9 (-0.6)	大気汚染防止
		②地球環境保全	0	0 (0)	
		③資源循環	18.7	18.9 (+0.2)	資源効率的利用、廃棄物処理
2	上・下流コスト	0	0 (0)		
3	管理活動コスト	8.2	7.9 (-0.3)	人件費、敷地管理	
4	研究開発コスト	0	0 (0)		
5	社会活動コスト	0.0	0.4 (+0.4)	事業所周辺の環境改善対策	
6	環境損傷コスト	0	0 (0)		
合計		30.4	30.1 (-0.3)		

電力ピーク15%削減への取り組み

2011年3月に発生した東日本大震災により、東北電力が運用していた太平洋側の火力発電所が、のきなみ甚大な被害を被ったほか、原発も停止しました。

従来から夏季に逼迫する傾向にあった電力供給は、この影響でより一層悪化することが懸念され、経済産業省から東北電力管内の大口需要家(契約電力500kW以上)に対して電力使用制限令が発動されました。

これにより、2011年7月1日～9月9日までの期間、ピーク使用電力を対2010年比で15%低減することが求められ、当社では下記のような対策を実施しました。

基本的 取り組み

1. 日本自動車工業会の決定を受け、休日を土・日曜日から木金曜日へ変更(7月～9月)
2. 不要な照明、空調(場所、時間帯)の徹底消灯・停止
3. 複数ある製造ラインの稼動時間帯をずらす事により、ピーク電力消費量を抑制

〈その他の取り組み〉

1

消費電力の少ない照明のLED化を推進しています。エコステーション(廃棄物一次保管場所)へLED照明を設置し、今後、会社ロビー等にも展開予定です。



LED照明

2

工場事務所の窓に遮熱フィルムを貼り、太陽光による室内温度上昇を抑制し、エアコンの消費電力を低減しています。



フィルム施工前



フィルム施工後(写真は外側から撮影)

3

生産・製造現場の作業環境改善も兼ね、工場の屋根に散水をし、太陽光の輻射熱による工場内温度上昇を抑制し、空調設備の消費電力を低減しています。



工場屋根への散水

コーポレートガバナンス 及 び コンプライアンス

1998年の操業以来、一貫して法令・規律遵守を徹底してきました。2008年にはコンプライアンス委員会を組織し、一層の内部統制強化を図っています。

また、お客様を始めとするステークホルダーの方々に対して、よき企業市民であることはもちろん、共に働く従業員に対しても人間性尊重の考えに基づく職場環境の整備、人材育成に取り組んでいます。

機密管理

トヨタグループ約20社と連携し、機密管理の強化に向けて取り組んでいます。機密を守るための行動は、「安全な作業と同じように従業員の基本動作である」と位置付け、職場の点検や従業員への啓発活動を行っています。年に2回、機密管理強化月間を設け、クリアデスクチェックや手荷物検査、啓発ビデオの視聴なども実施しています。



啓発ビデオ視聴



手荷物検査

雇用

新卒者の採用の他、障がい者雇用などにも積極的に取り組んでいます。2010年9月には障害者雇用の促進に寄与したとして、宮城県知事より感謝状を受けました。



感謝状と楯

◎従業員数・障がい者雇用率の推移



《従業員紹介》

第3製造課 鈴木 一真

2010年ジャパンパラリンピック陸上競技大会の「T60 100m」「F60 走り幅跳び」で優勝し、仙台市がアマチュアスポーツで活躍した選手や団体を表彰する「仙台市スポーツ賞」を受賞しました。



T60、F60とは
T=トラック、
F=フィールド、
60=障害者のクラス
(聴覚障害者)を
表します。

写真右、
左は奥山仙台市長

安全衛生

「災害の無い職場づくり」は、会社の飛躍の基盤となる職場力の強化に向けた最優先事項であると考えています。若年層の多い当社では、以下の基本事項3点を特に重点に取り組んでいます。

- 1 設備異常時に「止めること」の徹底
- 2 「通勤災害」の撲滅
- 3 「情報共有化」の推進

また、毎月の健康相談会を始め、禁煙サポート、社内歯科検診、年数回の健康講演会などを実施し、従業員の健康の維持・増進を図っています。



交通安全講習



禁煙・メタバ講習会

人材育成

「モノづくりは人づくりから」の考えに基づき、単なる技能訓練に留まらず、社会人・トヨタマンとして自己成長の機会となるようOJTや各種研修を行っています。



新入社員教育

品質管理

モノづくりを行う当社が果たすべき最大の責任は、高品質な製品をお客様にお届けすることです。工程内で発生した不良の原因を、関係者が集まって徹底的に解析する“ロスゼロ活動”や、QCサークル活動を通じて、日々品質レベルアップに取り組んでいます。



文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞



QCサークル宮城県地区大会

地域社会との関わり

震 | 災 | 関 | 係 |

この度の東日本大震災により、お亡くなりになられた方々に謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様ならびにご家族、関係者の方々に心よりお見舞い申し上げます。

自社復旧活動

幸いにして当社従業員は全員無事で、工場建屋・原動力関係設備の被害もわずかでした。

機械設備類も大半が無傷でしたが、300台余りは水平方向に数cm～30cm程度のずれを生じたため、芯出し復旧作業を行いました。また、1800tTRプレスの型交換用レールにも曲がりが発生したため、その修正作業も行いました。

品質確認用の測定機器やゲージ類については、新潟中越沖地震の際に早期復旧の最大の障害となったことを教訓に、事前に落下防止策を講じていたため、全て無傷でした。



1800tTRプレス修理



品質確認用ゲージ類

震災復興支援

◎支援物資提供

被災地の皆様へ義援金3千万円の拠出と、トヨタグループ各社からお送りいただいた支援物資の提供を宮城県を通じて行いました。



支援物資提供

提供物品(単位:箱)			
[食料品]		[生活用品]	
水	795	衛生品	126
お茶	487	おむつ	100
清涼飲料	180	粉ミルク	35
カップ食品	1,070	食器	17
レトルト食品	220	カイロ	13
菓子類	845	毛布	15
果物	242	その他	23

◎被災地ボランティア

石巻市や東松島市などの津波被害が大きな地域で当社従業員が災害復旧活動のお手伝いを行いました。

民家や小学校の清掃・瓦礫撤去など4月初め～5月中旬までの計24日間、延べ241名が活動しました。

7月からは木・金曜日の会社休日を利用して、1日あたり約20名がボランティア活動を継続しています。



被災地ボランティア活動

地 | 域 | と | の | コ | ミ | ュ | ニ | ケ | ー | シ | ョ | ン |

工場見学受入

学生の工場見学を受入れ、自動車産業について学ぶ機会を提供しています。



小学生工場見学

社外向けイベント主催

各種イベントを主催し、小学生向けのものづくり体験会『なぜなにレクチャー』では、「モノづくりの大切さ」や「科学の楽しさ」を伝えています。



なぜなにレクチャー

従業員家族向け工場見学会

従業員の家族を招待し、工場見学会を開催しました。家族が普段働いている職場を見学し、当社の事業活動への理解を深めていただきました。



家族向け工場見学会

トヨタ自動車東北株式会社

〒981-3408 宮城県黒川郡大和町松坂平5-1-1

〈お問い合わせ先〉経営管理部 人事・総務課 tel:022-345-6711 [代表]

〈コンプライアンス通報窓口〉

社内の組織や従業員個人の不正・不法行為を早期に認知し解決を図ることを目的に通報窓口を設置しています。お気にかかることがございましたら以下の窓口まで情報をお寄せ下さい。当社ロビーにも投書箱を設置しています。

tel:022-345-6711 [代表] 電子メール:sodan@tm-tohoku.co.jp